

令和6年
2024年

11月15日
金曜日

第11596号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6カ月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



全畜連肉用牛枝肉共進会去勢の部が開催された……P4

- ▶ 24/25年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み—USDA報告……P2
- ▶ 農水副大臣に笹川博義氏と滝波宏文氏を選任……P2
- ▶ スターゼン中間決算、売上高は2135億円で前年比5・1%増に……P2～3
- ▶ スターゼンが配当方針明確化、2025年3月期の配当予想を上方修正……P3
- ▶ 第53回全畜連肉用牛枝肉共進会去勢の部、最優秀賞に森ファーム、エスフーズがキロ5001円で購買……P4
- ▶ 「カナダビーフ ロードショー」②、持続可能な生産や子牛肉を紹介……P4～5
- ▶ プリマハム決算会見③、生産効率の改善を重視、自動化も進める……P6
- ▶ マルイチ産商決算は増収減益、食肉加工分野への重点投資進める……P7
- ▶ 「11月29日はいい肉の日」、全肉連がキャンペーン実施中……P7
- ▶ 米国とハンガリーで鳥フル発生、一部地域の家禽肉など輸入一時停止……P7
- ▶ [輸入牛現物相場] 豪州産の通関遅延でスソ物など逼迫……P8
- ▶ 【プロイラー市中現物相場】国産生鮮モモ年末に向け堅調……P8
- ▶ [資料] 2024年9月分の食肉輸入通関実績④……P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 14日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 14日……P11

注目のヘッドライン

24/25年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み—USDA 報告

農水省がまとめた米国農務省穀物需給報告(現地時間8日)によると、2024/25年度の世界の穀物全体の需給は、生産量が28億2825万t(前年度比0・4%増)、消費量が28億4805万t、(1・1%増)、期末在庫量が7億7006万t(2・5%減)を見込んでいる。

…詳細はP2

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0864 東京都足立区鹿浜 1-10-20
営業1課 / ☎(03)3899-2374(代) FAX(03)3857-2706
総務 / ☎(03)3853-4411(代) FAX(03)3899-4119

<http://www.visceral.co.jp>

24/25年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み—USDA 報告

農水省がまとめた米国農務省穀物需給報告(現地時間8日)によると、2024/25年度の世界の穀物全体の需給は、生産量が28億2825万t(前年度比0.4%増)、消費量が28億4805万t、(1.1%増)、期末在庫量が7億7006万t(2.5%減)を見込んでいる。

品目別にみると、小麦の生産量は7億9473万t(0.5%増)、消費量は8億341万t(0.7%増)、期末在庫量は2億5757万t(3.3%減)を見込んでいる。価格は10月に入り、EU、ロシアおよびウクライナの作柄懸念や中東の緊張の高まりなどを受けて6ドル/bu台前半まで値を上げたものの、米国農務省需給報告で世界の期末在庫量が引き上げられたことや米国およびロシアの降雨などを受けて値を下げ、10月末現在、5ドル/bu台後半で推移。

とうもろこしの生産量は12億1940万t(0.8%減)、消費量は12億2948万t(0.8%増)、期末在庫量は3億414万t(3.2%減)を見込んでいる。価格は10月に入り、原油や小麦への連れ高などで4ドル/bu台半ば近くまで上昇したものの、ブラジル降雨予報、米国産の順調な収穫進捗しんちよくおよび潤沢な供給見通し等を受け値を下げ、10月末現在、4ドル/bu台前半で推移。

大豆の生産量は、4億2540万t(7.8%増)、消費量は4億228万t(4.7%増)、期末在庫量は1億3174万t(17.2%増)を見込んでいる。価格は10月に入り、ブラジルでの降雨予報、米国産の順調な収穫進捗および潤沢な供給見通しなどを受けて値を下げ、10月末現在、9ドル/bu台後半で推移。

農水副大臣に笹川博義氏と滝波宏文氏を選任

政府は13日に行われた臨時閣議で第2次石破茂内閣の副大臣と政務官を決定した。農林水産副大臣には、新たに笹川博義氏と滝波宏文氏を選任された。また、政務官には、山本佐知子氏が新たに就任した。

農林水産副大臣のプロフィールは次のとおり。

笹川博義(昭和41年8月29日生まれ、東京都出身)。1989年明治大学政治経済学部を中退後、2007年から11年まで群馬県議会議員を務める。その後、12年に第46回



笹川博義副大臣

衆議院議員総選挙で初当選。環境大臣政務官、環境副大臣、衆議院農林水産委員長などを歴任した。

滝波宏文(昭和47年10月20日生まれ、福井県出身)。1994年東京大学法学部卒業後、大蔵省入省。その後、財務省人事企画室長や広報室長を務め、2013年に第23回参議院議員通常選挙で初当選。経済産業大臣政務官や参議院農林水産委員長などを歴任した。



滝波宏文副大臣

スターゼン中間決算、売上高は2135億円で前年比5.1%増に

スターゼンが14日に発表した2025年3月期第2四半期連結業績は、売上高2134億9400万円(前年同期比5.1%増)、営業利益32億3200万円(10.1%減)、経常利益36億6700万円(23.0%減)、親会社

株主に帰属する中間純利益25億200万円(27.0%減)。そのうち食肉関連事業の売上高は2119億2600万円(5.2%増)となった。

同社グループは「収益構造の再構築とサステナブル

ルな事業運営」をテーマに据えた中期経営計画の2年目を迎え、計画達成に向けた施策に取り組んできた。海外販売強化策として、和牛輸出の促進を図るため、「日本の食品」輸出EXPOへ出展し、「AKUNE GOLD」を展示・商談した。さらに、豪州における肥育事業のPRとして、豪州産Wagyu協会が開催したコンテストへ「八桜牛」「御櫻牛」を出品し、八桜牛は金賞、御櫻牛は銀賞・銅賞を受賞した。

また、「2024スターゼングループ秋冬商品提案会」を初めて開催し、同社の商品技術や強みを生かした新商品の提案ならびに海外進出サポート、プロセスセンターおよびスキパックの機能を生かした人手不足対応に関する取り組みなどを紹介。加えて、物流の2024年問題への対応として、新たな中継拠点の設置や物流網の再整備に取り組み、物流効率化に注力している。

サステナブルな事業運営においては、同社グループの掲げる2030年度に向けた温室効果ガスの削減目標がパリ協定で定められた「1.5°C目標」と整合しているとして、国際認定であるSBT認定を受けた。持続的に強固な経営の実現に向けてサプライチェーン全体の温室効果ガスの削減に取り組んでいく。部門別の業績は次のとおり。

【食肉】売上高は1684億9100万円(4・8%増)。国内事業は、物価高による実質的な可処分所得の減少により消費マインドが低下し、国産鶏肉などの比較的安価な食肉への需要シフトの動きがみられた。また、

円安急伸や原材料価格上昇を受け価格転嫁に努めたが、消費者の節約志向の高まりからコスト上昇の影響が先行した。

カテゴリ別にみると、国産食肉においては、節約志向の高まりによる国産鶏肉の需要拡大や国産豚肉の相場急騰により、取扱量・売上高ともに前年同期を上回った。売上総利益は、国産牛肉・国産鶏肉の相場が安定していたことから前年同期を上回った。

輸入食肉においては、現地相場高や円安により輸入食肉価格が高止まりしたことから、取扱量・売上総利益は前年同期を下回ったが、売上高は前年同期を上回った。

輸出事業は、スターゼンミートプロセッサー(株)阿久根工場で加工された輸出専用ブランド「AKUNE GOLD」を国内外での展示会に積極的に出品し、事業拡大を図っている。台湾、欧州向け輸出が特に好調に推移した。

【加工食品】売上高は376億3400万円(10・3%増)。ハンバーグ商品群やローストビーフ関連商品が堅調に推移したため、取扱量・売上高・売上総利益は前年同期を上回った。

【ハム・ソーセージ】売上高は47億8100万円(13・1%減)。原材料価格のコスト上昇を踏まえ、価格改定や商品の統廃合、工場オペレーションの改善に努めたものの、取扱量・売上高・売上総利益は前年同期を下回った。

スターゼンが配当方針明確化、2025年3月期の配当予想を上方修正

スターゼンは14日、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の一環として、同日開催の取締役会において配当方針の明確化ならびに配当予想の修正について決議した。

同社は前中期経営計画期間(2020年4月～23年3月)において収益構造を見直し、食肉の生産・調達から加工・製造、販売に至るまでをつなぐトータルサプライチェーンを強化した結果、着実に“稼ぐ力”がついてきている。また、23年4月からの現中期経営計画では、「収益構造の再構築とサステナブルな事業運営」をテーマに、同社としては過去にない規模の投資(3年

間で400億円)を計画し、新たな成長戦略の礎を築くべく鋭意取り組んでいる。

こうした状況を踏まえて今後の成長投資と株主還元のバランスを検討し、株主に安定した還元をすることをより明確に伝えるために、配当額を検討する際の指標として、安定的かつ累進性のあるDOE(連結純資産配当率)を導入し、配当予想を修正(増配)する。新たな配当方針では、DOE3.0%を目指し、安定的かつ継続的に配当を拡充する。25年3月期の配当予想(期末・年間)については前回予想の90円から、110円に修正する。

第53回全畜連肉用牛枝肉共進会去勢の部、 最優秀賞に森ファーム、エスフーズがキロ5001円で購買

全国畜産農業協同組合連合会は14日、農林水産祭参加事業第53回全畜連肉用牛枝肉共進会(黒毛和種去勢の部)を東京食肉市場で開催した。共進会には69頭が出品され、厳正なる審査の結果、最優秀賞には(株)森ファームの出品牛(父「秀幸福」、母の父「美国桜」、A5、枝肉重量646kg、BMSNo.12、ロース芯面積99cm²、バラの厚さ11.3cm)が輝き、キロ当たり5001円でエスフーズが競り落とした。

競り後には褒賞授与式が行われ、冒頭のあいさつで全畜連の加藤義康会長が「褒賞授与式については、コロナ下以降開催を中止していたが、今回5年ぶりの開催となった。畜産情勢においては、飼料価格や資材価格などの高騰による生産コストの上昇、また、消費者の生活防衛意識の高まりを受けた牛肉消費の冷え込み、そして期待されていたインバウンド需要も、高級和牛を中心とした外食産業に反映されておらず、肉牛経営は非常に不安定な情勢が続いている」とし、「一方、ここ2~3週間前から、価格の上昇がみられる。これは、夏場の消費低迷の反動でもあるようだが、季節的な要因もある。消費者の需要が旺盛だときいている。輸出関係も順調だといわれている。相場の高値維持をこれからも期待したい」と述べた。

続いて、審査報告では最優秀賞受賞牛について「ロース、僧帽筋、広背筋の張りも良く、満遍なくサシの入った、歩留まり、肉質に優れた枝肉。去勢牛の能力がいかに発揮された最優秀賞にふさわしい出品牛として選出された」と評価した。

そのほかの入賞牛(枝肉重量、BMS、キロ単価、購買者)は次のとおり。

[優秀賞] 1席 金子ファーム(648kg、



BMSNo.12、4569円、中村畜産)▷2席 高崎畜産(616kg、BMSNo.12、4601円、エスフーズ)[優良賞]1席 小形畜産(576kg、BMSNo.12、3028円、ミヤミート)▷迫田裕治(558kg、BMSNo.12、3370円、日山畜産)▷千葉辰美(647kg、BMSNo.12、2825円、G-7ミートテラバヤシ)▷日高見牧場(594kg、BMSNo.12、2856円、ミヤミート)▷神田グランドファーム(648kg、BMSNo.12、2942円、ふじなわ)

「カナダビーフ ロードショー」②、持続可能な生産や子牛肉を紹介

カナダビーフ国際機構が11日に開催した「カナダビーフ ロードショー2024 in東京」では、カナダビーフ国際機構のアルバート・エリングフェルド副会長(国際市場担当)に続き、同諮問委員会のチャド・ロス副議長とその妻のクリスタル・ロス氏(上写真)、

オンタリオ仔牛農家協会のジェニファー・ヘイリー・エグゼグティブディレクター(下写真)がそれぞれ講演を行った。ロス夫妻はサスカチュワン州のエステバン南部で牧場を運営しており、「L-7 Land&Cattle」のオーナー。垂直統合や管理の効率化に注力しており、

持続可能な農業経営の実現に尽力している。一方、ヘイリー氏は1998年から、オンタリオ仔牛農家協会(VFO)のエグゼクティブディレクターとして、ガバナンスや戦略計画、マーケティングに携わっており、子牛肉のプロモーションキャンペーンを通じて消費者への訴求を行い、業界全体の発展に貢献している。

【ロス副議長とクリスタル氏】私たちの牧場は118年の歴史があり、私たちが4代目となる。牧場の気候は非常に厳しく、夏は非常に暑く40℃まで上がり、冬はマイナス40℃まで下がる。夏の時期には約7500エーカーの草地を活用し、牛を定期的に移動させることで土地の休息期間を長くし、環境を守りながら高密度な放牧を行っている。一方、農産物の生産では輪作を行っており、とうもろこし、大麦、ライ麦、そしてクローバーを生産。計画的に作付けを行うことで、化学肥料などの使用を最小限に抑えている。牛は可能な限り自然に近い形で、野生動物と共存しながら育つ。私たちは、持続可能な肉牛生産者として第三者から認定されており、アニマルウェルフェアなどに関する基準を順守しながら、全ての命を大切にストレスを低減できるような形で生産を行っている。

【ヘイリー氏】カナダの農場で育てられる子牛はミルクフェッド、グレインフェッドの2種類ある。カナダの子牛生産者は酪農家と提携し、乳牛群で必要とされない雄の子牛を持続可能で高品質な食肉生産に活用。穀物飼料で育つ子牛はカナダならではだ。子牛は、屋内グループペンで飼育され、餌と水は自由に摂取可能。ビタミンやミネラルを含む高エネルギーのとうもろこし全粒粉、タンパク質サプリメント、食物繊維を栄養バランスを考えながら毎日給餌しており、大部分の子牛農家は、飼料用のとうもろこしを自家栽培している。

子牛の健康とケアはカナダの子牛生産者および加工業者にとって、最優先事項だ。子牛の飼育と取り扱いに関する全国的な行動規範は、カナダ国内の全子牛生産者の責任ある飼育の基準となっている。行動規範はアニマルケア、動物行動学、福祉に関する最新の研究結果を含む。



子牛肉の枝肉格付は、加工工場で行われており、肉色や枝肉の形状などを審査する。ただ、牛肉とは異なり、等級に基づいて消費者に販売されることはない。格付は、農家との価格交渉や顧客向けの枝肉を等級別に分けるために使用される。子牛肉の枝肉は牛肉のようにつるして熟成することはなく、プライマルカットして、熟成用に袋詰めされる。

カナダでは、全ての子牛が国内で義務付けられている家畜トレーサビリティプログラムの対象となる。子牛は出生から加工処理まで、個体識別により追跡可能だ。農場では、子牛の健康と生育を最適化するために、追加のデータ収集と管理情報を記録している。

カナダ産子牛は、小売店や外食産業向けの差別化できる商品になる可能性を秘めている。多様な規格や常に一定のポーションサイズを提供可能で、肉質は軟らかく、脂肪分が少ないので、さまざまな用途に使える。消費者は食事を楽しみながら、タンパク質を摂取できる方法を求めており、子牛肉は“ハレの日”の特別な食事などに最適な食材だ。(連載続く)

【訂正】本紙11月14日付の目次と3面の見出しに、28都道府県とあるのは43都道府県の誤りです。おわ

びして訂正します。

プリマハム決算会見③、生産効率の改善を重視、自動化も進める

【田悟生産本部長】上期の生産数量については、当社も値上げを進めていった時期ではあったが、コンシューマー中心に伸長して昨年を上回ることができた。生産の伸びは収益の基礎なので、外部環境が厳しい中で非常に貴重な追い風と捉えている。上期は、原材料や副資材などの仕入コスト増加について、仕入ソースの選別や仕入規格変更等で想定内に収め、コストアップを最低限に抑制できた。

生産性については、今年は内部的に生産効率の改善率を重視している。これまでの人時生産性の指標でみるとマイナスになっているが、ここ2年ほどで多くの量目変更を行ったことから過去と比較して評価することが難しい。

現在重視してする生産効率については、ハム・ソーセージ4工場で平均1・6%改善しているが、生産本部が期待する値よりは低い。その要因は、鹿児島工場がCVS向けの焼き鳥トレー少量パックが非常に伸長したこと。さらにテレビ番組で取り上げられたことにより、爆発的に増えたため、鹿児島工場は生産効率の指標でマイナスになった。ただ、これを特殊要因と考えた場合、他の3工場の生産効率の平均改善率は3・7%とかなり目標値に近く、生産効率としてみると順調といえる。鹿児島工場についても、収益面ではプラス効果を楽しんでおり、結果的には4工場とも良好だったといえる。

また、中国やタイの海外工場では為替による悪影響が続いた。グループ全体の収益では、プライムデリカの収益悪化が響いている。上期は新カテゴリーのスムージーが大幅に伸び、収益に大きく貢献した一方、主力の調理パン、総菜、軽食、デザートなどが軒並み大幅な前年割れとなった。得意先のCVSではお買い得商品を前面に出す施策に現在転換しつつあるが、現時点では改善途上にある。上期の加工品生産部門の連結業績では前年を下回ったが、本体だけに限れば改善も進み、前年を捉えることができた。

下期についてはプライムデリカにおいてもさまざまな施策を通じて巻き返しを図る。他の食品メーカーや

人気商品とのコラボ商品やクリスマスやおせちなどに向けての提案もまだ滑り出しではあるが、好調だ。そして顧客の施策に合致した商品リニューアルなどを進め、収益を取り返していきたい。これにはCVSの売上回復が大きく左右してくるため、ある意味チャンスであり、リスクでもある。

生産本部の取り組みとしては、ボトルネック工程の高速化を進めている。単に速い機械を1台導入しただけでは成果につながらない。ラインバランスを考えてコンピュータースケール、バンドル機、自動箱詰機、スライサーなどの更新を今春以降順次進めている。例えばウイナー包装のスピードは、コロナ初期の頃と比べて約20%改善しており、ライン全体の能力を上げる取り組みを進めている。

新技術の取り込みと自動化工程も今年のテーマだ。AIを使用した自動化についても自動搬送の拡大、自動投入機、自動箱詰機などを増やしている。このほか、準備中の自動ローダー、ウイナープラントの自動ロボットなども最終調整段階にある。また、解凍方法の変更や高精度のウイナー選別などの工程改善で生産効率アップを支援する策を行っている。

環境対策については、今年は4工場でCO2発生量の14%に当たる9千tを削減する。ここにはまだ余地があり、来年度に向けてさらに再エネ化を進めたい。太陽光発電については鹿児島工場で行進中であり、来年度は鹿児島工場の状況も踏まえ、さらに他工場での拡大も考えている。プラスチック削減については「香薫」のパッケージサイズを縮小。同業他社に先んじて縮小し、パッケージは小さくても中身は同じというプロモーションとセットで導入したことで売り上げは下がり、期待どおりの成果が得られている。

そのほか、好調な商品としては「香薫」のほか、「スマイルアップ!」シリーズも前年から大きく数量を伸ばし、直近では2ケタの伸びをみせている。さらにサラダチキンバーは、量販店に限れば、当社がトップシェアだ。サラダチキンの3連パックも大きく伸びている。(連載続く)

マルイチ産商決算は増収減益、食肉加工分野への重点投資進める

マルイチ産商は14日、2025年3月期第2四半期決算を発表した。連結の業績は、商品の相場高や値上げに伴う販売単価の上昇もあり、売上高は1268億7100万円(前年同期比2・0%増)と増収。利益面は、仕入価格上昇による売上総利益の減少や、物流コストの上昇、新基幹システムの稼働に伴う減価償却費の増加と一過性の人件費などの増加により営業損失6千万円(前年同期は7億600万円の営業利益)、補助金や受取配当金等による営業外収益もあり経常利益3億6600万円(61・3%減)、固定資産売却益の計上などにより親会社株主に帰属する中間純利益2億9300万円(44・5%減)となった。

セグメント別で畜産事業は、畜産物相場の高値傾向が継続し、販売が鈍化したことから売上高200億

800万円(4・2%減)、売上高の減少と相場高に伴う収益の低下により営業損失1億600万円(前年同期は1億3700万円の営業利益)。飼料価格の高騰に伴う国産の牛肉・豚肉の高値傾向と、輸入畜肉の仕入価格の高止まりが継続する中、製造・流通加工機能の強化に向けた食肉加工分野への重点投資を進めている。

水産事業は売上高762億8400万円(5・2%増)、営業損失1億1100万円(前年同期は2億1700万円の営業利益)。一般食品事業は売上高137億1500万円(3・8%減)、営業損失2億2800万円(前年同期は1億3200万円の営業損失)。丸水長野県水グループは売上高163億2500万円(1・1%増)、営業利益3億700万円(21・7%減)となった。

「11月29日はいい肉の日」、全肉連がキャンペーン実施中

全国食肉事業協同組合連合会は、食肉流通団体・食肉販売団体と一丸となり、令和6年度食肉小売安全情報提供等事業の一環として、「肉の日」事業を行っている。毎月29日を「肉の日」として当日を含む数日間、全国の店舗で食肉などの特別販売を実施。食肉小売店や外食店(焼き肉店)の計1695店がキャンペーンの参加店舗で、期間中は店頭のものぼり旗が目印となる。

今月は11月29日を「いい肉の日」としたキャンペーンがすでに始まっており、29日までを実施期間としている。参加店舗備え付けの専用はがき、または店頭ポスターのQRコードで応募可能。応募者の中から抽選

で250人に、食肉ギフト賞品として黒毛和牛カタロースすき焼き用(500g、冷凍)をプレゼント。抽選は実施期間終了後に行い、賞品の発送をもって当選発表とする。



米国とハンガリーで鳥フル発生、一部地域の家禽肉など輸入一時停止

農水省動物検疫所はこのほど、輸出国家畜衛生当局から提供された情報により、米国とハンガリーで高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、同国一部地域から輸入される生きた家禽、家禽肉等について輸入を一時停止した。

対象地域は、米国のうちオレゴン州のジャクソン郡、クルック郡、クラカマス郡(輸入停止措置日:10月25日)。ハンガリーのうちコマーロム・エステルゴム県、ジェール・モション・ショプロン県(11月14日)

【輸入牛現物相場】豪州産の通関遅延でスソ物など逼迫

豪州産では入船遅れの影響により、スソ物を中心^{ひつぱく}に逼迫がみられる。遅延解消までは期間を要するとみられ、川上から川中の流通に大きく影響が出そうだ。一方で末端の消費環境は依然として振るわず、相場の上昇気配があってもいまだに投げ売りが期待されているようだ。

チルドビーフは豪州産ではスソ物中心、米国産ではショートプレートに引き合いがある。市中在庫は通関遅れの影響で薄まっており、年末に向かって全体的

な逼迫感を強めていくものとみられる。フローズンはチルドの代替需要を受けて、豪州産カウミート、米国産ショートプレートなどの引き合いが強まり、すでに逼迫感が出ている。

輸入牛肉現物相場

円/キロ

	商品名	チルド	フローズン
米国産	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,550 ~ 1,700	1,500 ~ 1,600
	ショートプレート	1,250 ~ 1,300	1,250 ~ 1,350
	ボンレスショートトリブ(チョイス)	5,800 ~ 6,000	-
	ボンインショートトリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	3,400 ~ 3,510	-
	ストリップロイン(チョイス)	4,000 ~ 4,800	-
	リブアイロール(リップオン)	4,700 ~ 4,800	-
	テンダーロイン	5,000 ~ 6,500	-
	ステーキレディ	-	-
豪州産	チャックアイロール(チョイス)	1,950 ~ 2,200	1,650 ~ 1,800
	同(プライム)	2,200 ~ 2,450	1,900 ~ 2,300

	商品名	グラス	ショートグレイン
豪州産C	トップサイド	1,200 ~ 1,300	1,350 ~ 1,600
	シックフランク	1,200 ~ 1,250	1,250 ~ 1,420
	アウトサイド	1,250 ~ 1,300	1,300 ~ 1,350
	ポイント	1,200 ~ 1,250	1,250 ~ 1,370
	ナーベル	1,150 ~ 1,200	1,200 ~ 1,300
	ランプ	1,600 ~ 1,700	1,750 ~ 1,800
	クロッド	1,200 ~ 1,250	1,250 ~ 1,450
	チャックロール	1,350 ~ 1,450	1,500 ~ 1,650
	チャックテンダー	1,200 ~ 1,300	1,250 ~ 1,450
	キューブロール	2,600 ~ 2,800	3,600 ~ 3,970
豪州産F	ストリップロイン	1,800 ~ 2,000	2,000 ~ 2,550
	テンダーロイン	4,100 ~ 4,200	4,250 ~ 5,000
	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,150 ~ 1,250	-
	ナーベル	1,200 ~ 1,250	-
	カウミート	1,020 ~ 1,200	-
豪州産F	トップサイド	1,200 ~ 1,350	-
	シックフランク	-	-

【ブロイラー市中現物相場】国産生鮮モモ年末に向け堅調

◇国産物 生鮮モモはジリ高で推移。日経加重平均で690円に近づいた。最需要期の年末年始にかけて、さらに値を上げるか。生鮮ムネも390円台前後で堅調な動きだが、季節なりに需要も落ち着く。冷凍物ではモモ、手羽モトが鍋物、煮物用途で引き合いが強まった。

◇輸入物 ブラジル産、タイ産、米国産、モモ正肉、

ブロイラー現物相場

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	650中心
ムネ正肉(〃)	380~420
手羽モト(〃)	350~390
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	410~440

カット物とも、おおむねもちあい。荷動きについては11月に入ってやや活発化しているが、「例年並みに近い」との声もきかれた。

単位:円/キロ

輸入物	
米国産モモ正肉(240gUP)	460中心
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産BIL	430~450
ブラジル産モモ正肉	360~380
ブラジル産モモ角切り	450~460
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	440中心
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	430中心
タイ産モモ角切り(25~30g)	490中心
米国産モモ串	玉なし

[資料] 2024年9月分の食肉輸入通関実績⑭

品別国別 (COMMODITY BY COUNTRY)

品名・国名 COMMODITY & COUNTRY	国名 符号 CODE	数量 単位 UNIT	当 月		累 計	
			数量 QUANTITY	価額 VALUE	数量 QUANTITY	価額 VALUE
USA	304	KG	-	-	57	461
URUGUAY	412	KG	-	-	21795	98181
AUSTRAL	601	KG	2754	12428	31960	155944
TOTAL	990	KG	4669	21961	66951	324373
1602.50-600	その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(コーンビーフ)					
PHILPIN	117	KG	7008	5271	26604	25767
BRAZIL	410	KG	-	-	2040	2319
URUGUAY	412	KG	-	-	54238	44934
NEWZELD	606	KG	-	-	104034	199905
TOTAL	990	KG	7008	5271	186916	272925
1602.50-700	その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%以上のもの)(気密容器入りの もの(野菜を含むもの))					
R KOREA	103	KG	-	-	13050	10097
CHINA	105	KG	18532	13544	83394	63398
MYANMAR	122	KG	-	-	1380	1780
PAKISTN	124	KG	-	-	1628	1090
AUSTRAL	601	KG	671361	616533	3960813	3823736
TOTAL	990	KG	689893	630077	4060265	3900101
1602.50-890	その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%以上のもの)(気密容器入りの もの(冷蔵及び冷凍のいずれもしていないものに限 るものとし、野菜を含むものを除く。))(その他の もの)					
THAILND	111	KG	-	-	20330	32201
GERMANY	213	KG	-	-	1140	1242
TOTAL	990	KG	-	-	21470	33443
(E. U)	991	KG	-	-	1140	1242
1602.50-910	その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%以上のもの)(単に水煮したも の)					
BRAZIL	410	KG	-	-	9794	8020
TOTAL	990	KG	-	-	9794	8020
1602.50-999	その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%以上のもの)(気密容器入りの ものを除く)(その他のもの)					
AUSTRAL	601	KG	6990	11435	53705	83000
NEWZELD	606	KG	-	-	150	283
TOTAL	990	KG	6990	11435	53855	83283
1602.90-100	その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛、豚以外のもの)(腸、ぼうこう又 は胃の全形のもの及び断片(単に水煮したもの))					
ARGENT	413	KG	20688	9721	65188	28356
AUSTRAL	601	KG	500	255	900	459
TOTAL	990	KG	21188	9976	66088	28815
1602.90-210	その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛、豚以外のもの)(牛若しくは豚の 肉又は牛若しくは豚のくず肉を含有するもの)					
R KOREA	103	KG	-	-	7956	3393
PHILPIN	117	KG	720	998	3600	5357
TOTAL	990	KG	720	998	11556	8750
1602.90-269	その他の調製をし又は保存に適する処理をした昆 虫類(その他のもの)					
CHINA	105	KG	-	-	49524	33088
THAILND	111	KG	-	-	7	234
TOTAL	990	KG	-	-	49531	33322

(単位: 1,000円、UNIT:¥1,000)

品名・国名 COMMODITY & COUNTRY	国名 符号 CODE	数量 単位 UNIT	当 月		累 計	
			数量 QUANTITY	価額 VALUE	数量 QUANTITY	価額 VALUE
1602.90-290	その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛、豚以外のもの)(その他のもの)					
CHINA	105	KG	67752	11717	267300	52205
TAIWAN	106	KG	-	-	9460	15680
GERMANY	213	KG	-	-	18691	23377
AUSTRAL	601	KG	-	-	6592	41510
TOTAL	990	KG	67752	11717	302043	132772
(E. U)	991	KG	-	-	18691	23377
1603.00-010	肉エキス及びミートジュース					
CHINA	105	KG	-	-	520	2306
THAILND	111	KG	-	-	234	829
FRANCE	210	KG	-	-	323800	442101
USA	304	KG	226	656	46536	57472
MEXICO	305	KG	-	-	25	306
URUGUAY	412	KG	11658	22206	44474	101698
AUSTRAL	601	KG	38940	16704	201191	184662
PAP NGA	602	KG	-	-	5522	13552
NEWZELD	606	KG	1360	4617	18250	62578
TOTAL	990	KG	52184	44183	640552	865504
(E. U)	991	KG	-	-	323800	442101
1603.00-090	魚又は甲殻類、軟体動物若しくはその他の水棲無脊 椎動物のエキス及びジュース					
R KOREA	103	KG	48600	55556	249854	241289
CHINA	105	KG	213668	90670	1859177	901901
TAIWAN	106	KG	-	-	12680	265870
THAILND	111	KG	109972	47855	1305053	571838
INDNSIA	118	KG	38300	12564	475747	159438
SPAIN	218	KG	60513	18801	401324	129714
CANADA	302	KG	38396	37362	38396	37362
USA	304	KG	29095	10615	175452	68406
CHILE	409	KG	-	-	2	355
AUSTRAL	601	KG	14040	13712	28080	28182
NEWZELD	606	KG	200	2293	940	9509
TOTAL	990	KG	552784	289428	4546705	2413864
(E. U)	991	KG	60513	18801	401324	129714
3502.11-000	卵白(乾燥したもの)					
CHINA	105	KG	1000	1544	11605	26583
INDIA	123	KG	104500	92368	354500	401033
SWEDEN	203	KG	8055	8719	48270	70748
NETHLD	207	KG	248100	273418	1868760	2481920
BELGIUM	208	KG	51000	64219	204098	301917
FRANCE	210	KG	65250	68510	444000	583798
GERMANY	213	KG	120000	134332	580000	733690
ITALY	220	KG	122902	134229	1182928	1538579
POLAND	223	KG	45000	51482	365000	467143
LITHUAN	237	KG	-	-	90000	108938
USA	304	KG	37560	70370	473814	972446
BRAZIL	410	KG	-	-	22400	40329
ARGENT	413	KG	23000	21998	228400	315379
TOTAL	990	KG	826367	921189	5873775	8042503
(E. U)	991	KG	660307	734909	4783056	6286733
3502.19-000	卵白(乾燥したものを除く。)					
LITHUAN	237	KG	-	-	160	323
BRAZIL	410	KG	-	-	69120	11656
TOTAL	990	KG	-	-	69280	11979
(E. U)	991	KG	-	-	160	323

(おわり)

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月14日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,350	2,792	2,339	-	-
		安値	2,418	2,158	2,118	-	-
		平均	2,749	2,440	2,236	-	-
	83頭	頭数	51	27	5	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	5,401	2,787	2,349	-	-
		安値	2,359	2,267	2,017	-	-
		平均	2,815	2,406	2,168	1,850	-
	206頭	頭数	157	39	9	1	-
去 B	高値	-	-	2,050	-	-	
	安値	-	-	2,001	-	-	
	平均	-	-	2,019	-	-	
3頭	頭数	-	-	3	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	1,685	1,648	1,567	1,464	-
		21頭	頭数	1	3	10	7
	雌 C	平均	-	1,632	-	1,461	-
		5頭	頭数	-	3	-	2
	去 B	平均	-	1,795	1,512	1,485	-
		22頭	頭数	-	5	9	8
去 C	平均	-	1,540	1,390	-	-	
5頭	頭数	-	2	3	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚	その他
と畜	430	1,174	-	(競り) (相対)	
売買	427	947	324.0	-	2
				2	68

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,502	2,006	1,548	1,310	-
	B	-	-	1,340	1,306	1,171
和 去	A	2,776	2,257	2,046	-	-
	B	-	2,235	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	895	924
	C	-	-	-	861	838
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	1,104	-
交 雌	B	-	1,761	1,505	1,435	-
	C	-	1,724	1,478	1,302	-
交 去	B	-	1,730	1,601	1,443	-
	C	-	1,697	1,508	1,398	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	627	745	647	572	572
	安値	562	540	529	454	356
	平均	590	560	552	536	491
	頭数	(7)	(398)	(334)	(114)	(94)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入相対	高値	-	-	-	-	518
	安値	-	-	-	-	518
	平均	-	-	-	-	518
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)

[大阪食肉卸売市場] 11月14日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,530	2,170	-	-	-
(頭数)	(12)	(6)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,581	2,218	-	-	-
(頭数)	(31)	(6)	(2)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	1,933	1,756	1,550	1,452	-
C	-	1,571	-	1,427	-
交雑去 B	-	1,793	1,607	1,340	-
C	-	-	-	1,296	-
豚	-	566	532	562	483

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	11月14日	11月13日	(11月累計)
豚	70,000	69,100	623,800
成牛計	4,530	5,330	44,310
和牛雌	1,020	1,450	11,050
和牛去勢	1,320	1,580	11,980
乳牛雌	780	700	6,750
乳牛去勢	520	630	4,630
交雑雌	510	410	4,640
交雑去	380	550	5,150

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 11月14日

東京	1,563円	(前日 1,577円)
大阪	1,430円	(前日 1,381円)

[豚・全農建値] 11月14日

上	中	取引頭数	市況
562円	549円	1,229頭	弱もちあい

と畜	牛 118頭	豚 112頭	牛概況	もちあい
売買	牛 98頭	豚 123頭	豚概況	急伸

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月14日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	616 (-)	- (-)	6,037	-	もちあい
仙台 [中]	575 (568)	518 (508)	383	25	反発
宇都宮 [地]	592 (-)	580 (509)	1,597	51	強含み
茨城 [地]	566 (567)	550 (548)	1,144	991	もちあい
群馬 [地]	559 (557)	493 (498)	2,614	496	強含み
さいたま [中]	565 (557)	553 (543)	228	230	上伸
東京 [中]	560 (574)	552 (556)	1,174	947	急落
横浜 [中]	562 (564)	543 (538)	656	655	もちあい
山梨 [地]	570 (602)	576 (599)	132	103	続落
浜松 [地]	566 (542)	481 (470)	272	33	上伸
名古屋 [中]	591 (582)	557 (545)	958	279	強もちあい
京都 [中]	603 (-)	566 (-)	67	117	もちあい
大阪 [中]	566 (540)	532 (492)	112	123	急伸
神戸 [中]	575 (-)	570 (-)	49	135	-
岡山 [地]	679 (691)	692 (648)	356	282	弱気配
広島 [中]	- (586)	- (544)	250	6	-
福岡 [中]	572 (573)	539 (542)	496	162	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 11月7日～11月13日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,766,462 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,242	1,298	1,236	80,791
うで	732	810	837	798	138,319
ロース	1,080	1,186	1,259	1,175	163,138
ばら	1,199	1,246	1,356	1,279	169,150
もも	756	782	805	782	238,927
ヒレ	1,105	1,118	1,257	1,145	21,634
セット	947	1,030	1,076	1,018	954,503

◇近畿圏 総重量 799,479 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,274	1,319	1,265	66,405
うで	702	740	810	750	127,880
ロース	1,058	1,188	1,245	1,170	110,517
ばら	1,253	1,282	1,320	1,282	132,450
もも	712	740	778	737	186,396
ヒレ	1,134	1,273	1,339	1,264	10,379
セット	899	972	1,068	984	165,452

[食鳥正肉日経相場] 11月13日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社) ※木曜日は休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	649	703	990	10
ムネ	363	416	550	9

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月12日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	940	603	550	600	650
安値	665	370	290	360	350
平均	704	407	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉に関する**最新**のニュースを、どこよりも**早く**お届け!

日刊食肉速報

2024年11月、リニューアル!

A4版にリニューアルして更に見やすくなりました。

また、紙媒体だけでなく、新設されたWEBページでいつでも手軽に情報チェックが可能に。

食肉関連の行政、業界の動向をはじめ、国産と輸入の相場市況、企業情報など、これからは鮮度の高い日々の業界ニュースをお届けいたします。

紙媒体

A4版に
サイズUP!



購読料は
そのまま!



WEB サービス版

手軽に情報チェック!
バックナンバーも
探しやすい!



仕様 | 11ページ
(表紙)カラー (中面)モノクロ
発行 | 月曜から金曜(祝祭日を除く)
購読料 | 1カ年 82,080円(税・送料込)
6カ月 42,120円(税・送料込)

*写真はイメージです。

広告スポンサー募集

日刊だからこそ、効率的なタイミングでPR!

業界紙として70年の歴史をもつ信頼性の高い本紙にて、広告を出しませんか?
広告サイズは幅広く対応可能です。ぜひ、貴社のビジネスにお役立てください。

イベント情報など
スポット告知に最適

ターゲットを絞った
訴求力の高さ

70年の歴史をもつ
信頼性の高い業界紙

● 購読・広告掲載に関するお問い合わせ ●

東京支社 ☎ 03-3663-2011 ✉ mail@shokuniku.co.jp

株式会社 食肉通信社